せいれい看護学会　News Letter

Contents
◆理事長挨拶　◆第 14 回せいれい看護学会学術集会を終えて
◆学会の様子と総会報告

◆理事長挨拶　　せいれい看護学会理事長　大石ふみ子

せいれい看護学会は、今年度 2023 年 11 月現在で、会員 261 名となり、着実に成長しつつあります。本年度は、第 14 回の学術集会が袋井市立聖隷袋井市民病院の春日三千代学術集会会長のもと開催され、参加者の皆様のご協力によって大いに盛り上がりました。昨年度と今年度のせいれい看護学会学術集会は、臨床現場から学術集会会長を迎えることにより、コロナ禍や多職種・異業種のコラボレーションなど、最新の課題を共有する素晴らしい機会となりました。学術集会開催をはじめ、学会運営にご協力くださいました皆様への心からの感謝とともに、今後につきましてもどうぞよろしくお願い申し上げます。

◆第 14 回せいれい看護学会学術集会

学術集会会長　春日三千代（袋井市立聖隷袋井市民病院 看護部長）

メインテーマ：異業種コラボレーションと私たちの看護の未来
日　時：2023 年 9 月 16 日（土）10：00～16：00　　場　所：聖隷クリストファー大学
会長講演「異業種コラボレーション～あらためて看護の専門性を考える～」

学会当日「学術集会のテーマは壮大ですが、私らしく、身の丈にあった話をする」と自分に言い聞かせ、学術集会のテーマに込めた想いを伝えました。異業種コラボレーションのきっかけは「看護の現場で使う便利で効率の良いものが欲しい」でした。患者にとっても心地よく、看護職にとって使い勝手がよい“看工連携”の推進についてお話ししました。看工連携をはじめとした異業種とのコラボレーションの拡大、発展は、看護の専門性について、あらためて考える機会となりました。異業種に言葉で看護の専門性を伝える、看護職自身が看護の専門性を研鑽し続けることが大切だと感じました。

☆シンポジウム　「異業種コラボレーション～WIN・WIN・WIN～」

シンポジスト　津島 準子（公立森町病院 副院長兼看護部長）
奥田希世子（浜松市リハビリテーション病院 総看護部長）
伊藤千加良（株式会社クラベ営業本部企画部企画課主任）
小笠原 敦（ふくろい産業イノベーションセンター センター長）
座　長　　春日三千代（袋井市立聖隷袋井市民病院 看護部長）

シンポジウムは、患者も看護職も異業種（企業）も、ともに HAPPY になるという想いを込め～WIN・WIN・WIN～と表現しました。４名のシンポジストが共通して、異業種連携のコミュニケーション、自分の思っていることを伝えることの難しさ、重要性について話をされました。異業種コラボレーションによる物作りは、単なる製品を作ることではなく、『現場の困り事の背景まで関係者全員で深掘りする』というお話が印象に残りました。第 14 回学術集会がきっかけとなり、看護職の現場の困り事を共有する機会を持つという計画もあるようです。看護職のパワーもさることながら、企業のプレゼン能力の高さが良い刺激となりました。

☆交流集会 1　「異業種コラボレーションへの仕組みづくり」

企画者　伊藤千加良（株式会社クラベ営業本部企画部企画課主任）
岩部 貴文　（株式会社クラベ EX 事業部 課長）
宮野 大助　（株式会社クラベ EX 事業部 主査）

看護に携わる方々の身近に起きている問題点について、話を聞くことができました。多くの問題点について情報交換できた事は大変有意義な時間となりました。様々な問題を解決するためには、そのための仕組みづくりが不可欠です。今後は、仕組みづくりに取り組めるコミュニティを形成し、問題点を解決できるようにしていきたいとお話しされました。多くの意見が反映され、看護現場への新技術導入が実現へと向かうことを願い、企業にとっては、新しい事業への創出へとつながることを期待しています。

☆交流集会 2　「新人看護師，現任教育実践者，教育研究者が参画する看護基礎教育から現任教育への連携」

企画者　大山末美　（聖隷クリストファー大学看護学部 教授）
大石ふみ子（聖隷クリストファー大学看護学部 教授）
藤浪千種　（聖隷クリストファー大学看護学部 准教授）
北堀昌代　（聖隷三方原病院 看護次長）
中村光世　（聖隷浜松病院　看護次長）
中山梨紗　（中東遠総合医療センター 副師長）
大場和香奈（中東遠総合医療センター 主任）

新人看護師の成長につなげる足掛かりとするために「新人看護師教育を提供する側」の当事者視点から教育の実際と肌で感じる課題を伺い、情報交換・共有・ディスカッションを行いました。看護基礎教育の立場として大学教員からは、「社会人基礎力」「専門職者として求める能力」について、各病院からは、卒後 1-2 年目看護師の現任教育の実際について、ラダーの概要と目標到達までの計画が報告されました。特に新人看護師の達成目標であるレベル 1 では，看護師としての姿勢や態度の育成に尽力されていました。参加者を交えたディスカッションでは、多くの質問や感想があり、看護基礎教育と現任教育の連携が深めることができました。

☆交流集会 3　「中東遠地域の看看連携を考える－理想的な地域共生社会をめざして－」

企画者　林 泰広　（袋井市立聖隷袋井市民病院 病院長）
杉山久美子（中東遠総合医療センター 副院長兼看護部長）
平野一美　（すずかけヘルスケアホスピタル 看護部長）
赤堀奈緒子（訪問看護ステーション掛川 所長）

中東遠地域の急性期病院、回復・慢性期病院、訪問看護ステーションの看護管理者が、それぞれの施設に求められる役割を遂行するための取り組みについて発表を聞きました。慢性疾患、認知症などを抱えた高齢者の健康の維持には、病院だけでなく地域の診療所や在宅診療、介護施設なども重要な存在です。病気を抱えた高齢者が地域に戻り生活を営んでいきます。私たち看護師は、周囲の施設や地域から期待されていることを十分に理解する必要があります。同じ景色でも見る角度を変れば、景色も違ってきます。看看連携には、あえて違う景色を見るということも必要だと感じました。

☆学術集会企画：ワークショップ「医療 MaaS と看護のコラボレーション」

企画者　渡邊真智子、鶴田惠子（浜松看護管理研究会）
　　籔田耕一、古谷美和　（トヨタ車体株式会社）山地 圭（AMA Xperteye 株式会社）

医療 MaaS(Mobility as a Service)＊1 に焦点をあて、デジタル技術の進化と看護師がコラボレーションする方法や看護の専門性と価値について創造する機会となりました。トヨタ車体による医療 MaaS「メディカルムーバー」の取り組み報告や浜松看護管理研究会によるオンライン診療のデモを行いました。ワークショップの参加者は 23 名、看護師、教員、看護学生など様々な視点で意見があがりました。へき地医療や通院困難な在宅療養者に活用ができるといった意見があった一方で、同乗する看護師に一定の能力が求められることが示唆されました。

1）医療機材を搭載した車両で患者の元へ出向き、患者と病院にいる医師をオンラインでつなぐことで、車内で診療を行うことができる可動式の医療サービス

☆演題発表　　（口演 10 演題、示説 18 演題）

◆総会

日時：2023 年 9 月 16 日（土）9:00～9:30　場所：聖隷クリストファー大学　1 号館 7 階 1705 教室開催。会員数 258 名（2023 年度 8 月 31 日現在）について、出席者 32 名、委任状 71 名　計 103 名に対し、会則第 22 条により会員数の 5 分の 1（52 名）以上の出席を確認しました。審議事項はすべて承認されました。
なお、2023 年度開始のインボイス制度の登録は完了しました。

****

【企画委員】

第 14 回せいれい看護学会学術集会は、前日気温 33℃を超える猛暑のなか準備、当日も雲一つない真夏のようなお天気でした。企画委員会が豪雨により延期になる、9 月に入ってからは台風の心配もありましたが、無事に開催することができました。参加者は約 200 人、静岡県西部中東遠地域の方にもシンポジウムや交流集会にて発表して頂きました。異業種コラボレーションというテーマで、看護・介護・福祉とは縁のなかった企業のみなさんが、会長講演やシンポジウムを聴講している姿に新鮮さと感動を覚えました。大学と袋井市立聖隷袋井市民病院がコラボレーションして企画運営にできたことは、大変貴重な経験となりました。今後も－WIN・WIN・WIN－ともに HAPPY になる、そんな学術集会を創りあげていきたいと、心から思います。

****

◆学会誌編集委員会

投稿をお待ちしています。

◆広報委員会

せいれい看護学会を広くお知らせするために News Letter No.7 を発行しました。

◆事務局から会費納入のお知らせ

年会費は 5000 円です。過去の納入がお済みでない方は、本年度分と合わせて納入をお願いします。
入会希望の方はせいれい看護学会ホームページをご参照ください。
http://www.seirei-sons.com

◆第 15 回学術集会のお知らせ

日　時　：2024 年 9 月 14 日（土）
学術集会会長：村木ゆかり氏（北斗わかば病院　看護部長）
テーマ　：「看護の未来につなぐ」
場　所　：聖隷浜松病院　10：00～16：30

演題募集：2024 年 3 月 25 日（月）～5 月 13 日（月）
ssns2024@seirei.ac.jp

応募資格：せいれい看護学会会員であること
（非会員は演題応募までに入会をお願いします）